

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名)

事業所番号	0272200312		
法人名	社会福祉法人 長慶会		
事業所名	グループホームりんご座		
所在地	青森県弘前市大字坂市字亀田53番地3		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内で運営している特別養護老人ホーム、デイサービス等と連携しながらサービス提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、理念の中にある住み慣れた場所で「わたしだけの人生」という文言をととても大切にケアに日々心がけている。職員と利用者とのコミュニケーションがととても良くとれていることから、利用者の表情がととても良く、落ち着いて生活している。また、法人敷地内には特別養護老人ホームもあり、園内行事等によるお互いの交流もこのホームの特徴となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で、安心した暮らしを営めるように、支援することを理念として掲げ、朝の申し送りや会議で周知の機会を設け、サービス提供時、反映できるように取り組んでいる。	毎朝の申し送り時に理念を唱和している他、月1回の内部研修会等で理念の内容を確認している。また、職員、利用者、家族、来訪者の目に入るような場所に理念を掲示しており、理念を意識したサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しく清掃活動に参加している。併設施設のデイサービス利用者の面会や、法人全体の行事への参加、地域行事への参加で交流できるようにしている。	民家から離れた場所にあるため、気軽に立ち寄ってもらえるような環境にはなっていないが、散歩や買い物時には地域の方と挨拶を交わし、交流を図っている。また、町内会に加入し、地域の清掃活動や行事を通して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験学習や実習生、ボランティアの受け入れをし、利用者のプライバシーの配慮に心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動内容、職員の研修報告、外部評価の結果報告をしている。行事に参加していただき、事業所や利用者の理解に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、ホームや利用者の状況報告や意見交換等を行っている。また、ホーム側から積極的に案件を提出し、建設的な意見を頂いており、サービスに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員、地域包括支援センター職員の参加があり、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には、市役所の職員は年2回程度、地域包括支援センター職員は毎回参加している。また、毎月ホームだよりを発行し、市役所へ配布している他、困った事があれば市役所から相談等の助言を受け、課題解決等をしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>予測されるリスクを事前に予防できるよう工夫し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向を察知した時は、見守りや付き添いの支援をしている。近隣の民生委員に協力が得られるようにしている。</p>	<p>法人全体の取り組みとして、身体拘束委員会が設置され、内部研修会を実施している。いかなる場合も身体拘束はしない方針であり、拘束をしないように、日々の関わりの中で、職員間で話し合いや拘束をしないケアを実践するよう取り組んでいる。また、外出傾向がある利用者には付き添うなどの支援を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「施設内虐待防止指導者養成研修会」を終了し、施設内で研修会を実施し、防止に努めている。虐待を見過ごさないように注意を払っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>外部研修で学ぶ機会があり、理解を深めている。必要に応じて、ご家族に情報提供できるように支援している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>方針や取り組みについて説明し、不安や疑問な点を聞き、理解・納得を図っている。改定時は、説明を行い同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口、処理の概要を掲示している。利用者の健康状態や受診状況、金銭管理状況を面会時や電話連絡で定期的に報告している。職員の異動等の報告は徹底されていない。</p>	<p>日々のケアの中で利用者の表情や会話から、意見等聞き出すよう努めている。また、月に1回家族が利用料を支払いに來るので、その時に家族からも意見や要望が引き出せるよう取り組んでいる。</p>		

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やアンケートで職員の意見や提案、要望を聞く機会がある。		朝の申し送りや会議などで、職員から意見や要望を聞くようにしている。管理者は職員に合わせた勤務体制が出来るよう配慮している。また、人事考課を実施しており、年2回管理者と面接を行い意見等聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対して人事評価実施。給与・賞与等は、評価と共に昇格や昇級が決まってくるなど努力が直接評価に結びつき、やりがいにつながっている。全職員へアンケートをし、改善点や希望等確認し、向上に努めている。		/	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は月1回行われており、個々に習得したい内容に合わせて参加してもらっている。外部研修後は会議で報告し、日々のケアに活かせるよう心がけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、同業者との交流やネットワーク作りに力を入れており、情報交換や質の向上に向けて取り組んでいる。グループホーム協会に参加し、交流や意見交換する機会がある。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者やご家族と面談し、ニーズの把握に努め、信頼関係を築くことを意識しながら対応している。		/	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時は、面談で気がかりや要望の把握に努めている。入居後も不安や要望を気軽に相談できるよう、面会時に声がけしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、グループホーム以外の法人内のサービスの説明や、利用ができるように対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や本人にとって大切な出来事を、全職員で共有し、食事作りや園芸など、一人ひとり持てる力を発揮できるよう支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活歴や家族の思いを聞いたり、利用者の心身の状況や日頃の暮らしぶりなどを伝えることで関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに近隣の方が来ている時は、交流できるようにしたり、馴染みの美容室へ出かけられるよう支援している。	日々の会話の中から利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。利用者の友人がホームや併設している通所に面会に来る等、継続した交流が図れるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士スキンシップをとることができるよう環境を整えたり、おやつ作りや調理作業などで交わる機会を作り、孤立しないよう配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族会が法人全体で組織されており、法人内の特別養護老人ホームへ移っても、ご家族との関係が継続できている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や行動から、一人ひとりの思いを汲み取りケアプランにつなげ、全職員で取り組んでいる。ご家族や法人内のデイサービスを利用している近隣者から情報収集している。	利用者の言動は拒否したり、否定せず傾聴し、日々の利用者の会話や表情から思いや意向を把握するように努めている。また、必要に応じて、家族からも意見や要望等の情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境について、ご家族や顔馴染みの方から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のバイタルや心身状態を把握し、変化がある時は記録し、情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを活用し、職員全体の意見や気づきを取り入れたり、本人の意向を引き出し、思いに沿った具体的な介護計画の作成に努めている。	介護計画作成時には、利用者からの意見を反映させるよう努めている他、家族からの意見も参考に、サービスに反映された計画を作成している。実施期間は3ヶ月で計画書に記載されており、変化が見られた場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態やケアの実践状況を記録し、情報を共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ、外出支援したり、法人の特養やデイサービスの行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地区会長や民生委員、包括支援センター職員の参加があり、協力を得られる関係作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が週1回往診するため、こまめに情報伝達でき、相談、対応しやすい環境にある。希望する医療機関を受診できるよう支援している。	希望するかかりつけ医を受診できるよう支援しており、受診状況についても記録に残し、把握している。必要に応じて、医療機関や家族も含めての情報交換もしており、利用者や家族の納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師が毎日状態確認し、身体状況に変化があった時は、連携できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、医療機関と情報交換している。入院先への見舞いや家族へ連絡し、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、ご家族や医療機関と早期にやりとりし、意思統一を図っている。重度化した場合は、ご家族の思いを確認し、今後の方針について話し合うようにしている。	重度化や終末期の方針について、利用者・家族へはできることとできないことを説明し、意思疎通を図っている。重度化になる恐れがある場合、早期に家族や協力医療機関と話し合う体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生のマニュアルを作成し、急変時の対応を隣接する特別養護老人ホームの看護師から学び、知識や技術を再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、夜間・日中を想定した避難訓練を行っている。また、災害時の対応については警察、消防団、民生委員からの理解が得られ、協力体制が整っている。	災害時における少量の飲料水や食料は用意しているが、寒さをしのげる物品等、必要な数量を備えられたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声かけや、本人に合った声かけや対応をできるよう、日々の確認や改善について話し合い、統一した対応ができるように努めている。	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、個人を尊重した声かけや対応に心がけ、利用者の言動を拒否したり、否定せず、傾聴する姿勢でケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力量に応じ、自己決定する場面や、選択する場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしさを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んだり、おしゃれを楽しめるよう支援している。馴染みの美容院に出かけられるよう支援している、		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好み、苦手なものに考慮している。調理や盛り付け、配膳、後片付けなど、職員も一緒に行っている。食器の工夫、食べ方の混乱や食べこぼしなどのサポートを行い、楽しみながら食事できるように支援している。	本人の好みや苦手なものを把握し、対応している他、利用者と一緒に新聞の折込チラシを見て献立を決めたり、食べたいものを聞きながら実施している。また、利用者の力量に合わせ調理の下準備や後片付け、盛り付け等職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	抱えている病気や身体状況に応じて、医師に食事量や水分量の指示を得ている。毎月体重測定を行い、増減を確認している。栄養士から助言を得られる体制になっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の手入れやうがいの声かけ、介助をし、出血や炎症の確認をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に排泄チェックをしパターンを把握している。パターンに応じて事前にトイレ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握している。また、失禁予防のため、利用者によっては時間誘導も行っており、日頃から利用者の状況を把握し、職員間で話し合い見直し等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、排便状況の確認をしている。乳酸菌飲料の提供や毎日ラジオ体操を行い、自然排便を促す工夫をしている。下剤使用時は個々に合わせた使用量とし、排便状況により随時見直しをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前にバイタル確認し、体調に合わせた入浴時間としている。毎日入浴を行い、希望の時間に合わせるようにし、一人ひとり入浴していただいている。	利用者の習慣や好みを把握しており、状況変化があった場合はその都度対応している。毎日、午前中に入浴を実施し、希望の時間に合わせるよう配慮している。また、入浴を拒否する利用者に対しても、無理強いせず、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や体調に合わせ、外出後、入浴後にも休息を取り入れている。毎日の睡眠パターンを把握し、日中の活動を促し1日の生活リズムを整えるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容個人ごとにファイルし、全職員が内容を把握できるようにしている、誤薬防止のため必ず2名の職員で確認し、服薬している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やできること、できないことを把握し、力量に合わせた園芸や作業の提供をしている。誕生日には嗜好品を取り入れている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	楽しみや気分転換につながるよう、季節に合わせた外出を取り入れている。行きたい場所を把握し、希望に沿った外出支援をしている。	日々の関わりの中から、利用者が行きたい場所の把握に努めており、希望により買い物や散歩、小旅行などの支援を行っている。また、遠方に外出する際は、利用者の身体状況や精神状況を把握した上で本人の負担にならないよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、ご家族と話し合い管理できる方には、自己管理を継続している。ご家族へ使途に関する相談や報告をし、合意を得ている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を書く時は、その都度要望に応じ支援している。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>小上がりがあり、ゆったりできるスペースがある。職員同士の会話、テレビの音量や日差しへの配慮、季節に合わせた空間作りを心がけている。</p>		<p>共用スペースには、木目調のダイニングセットが設置されている他、小上がりには小さな布団が置かれ、いつでも横になれるよう配慮している。また、冬場は共用スペースが乾燥するので、洗濯物を干し湿度調整を行う等の工夫をしている他、共用スペースには季節を感じることができるよう飾りつけをしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>小上がりや所々に椅子を配置し、ひとりで過ごせたり、気の合う利用者同士が話しやすいテーブル配置にしている。</p>		/	
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や生活用品を持ち込まれるよう家族に働きかけ、本人らしい居室を表現できるようにしている。</p>		<p>ベッドとタンスは備え付けのものとなっているが、利用者・家族には利用者が使い慣れた愛用品を持ち込むよう働きかけている。写真や使い慣れた家具等を持ち込んでおり、利用者思い思いの部屋になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所違いを防ぐため居室に暖簾を下げたり、掲示物は見やすい色や大きさ、高さにするよう工夫している。</p>		/	